

薬剤師の国家試験予備校

「メディセレ」東京校を開校

心理カウンセラーの養成も



ダブルスクール組も多いメディセレ大阪校の授業。受講者の熱気にあふれている

薬剤師の国家試験予備校「メディセレ」(大阪市淀川区)が今春、東京校を開校した。薬の知識を兼ね備

えた心理カウンセラーの養成にも乗り出しており、東西を拠点にした人材育成を本格化させる。

大学の薬学部が2006年に4年制から6年制に移行、薬科大学や薬学部の新設が相次ぎ、国家試験の受験者も増加したことから、認定薬剤師でもある児島恵美子理事長が07年夏に大阪で開校。「国家試験の合格がゴールではなく、社会から求められる薬剤師の育成」を理念に一人一人の弱点を見据えた勉強法が人気を集め、受講者は初年度の160人から翌年度は250人、今年度は300人にまで増えた。昨年5月には大阪校で「心理カウンセラーメディカルコース」も新設。心理カウンセラーの資格を持った講師をそろえ、薬の知識がある内閣府認定カウンセラーや、うつ病などの初期診療も担える薬剤師の養成を目指している。受講生のモチベーションを高める授業が特長で、生徒同士が切磋琢磨できる補講授業を取り入れている。また、社会に貢献できる薬剤師像をイメージしてもらおうと、児島理事長らがカンボジアで行った医療支援の様子を同校のホームページ (http://www.eidise.com) で紹介している。

東京校は今年4月に新宿区で開校。国家試験対策や心理カウンセラー養成コースで現在、約60人が受講。児島理事長は「医師不足が問題となっているなか、薬剤師が貢献できる分野はさらに大きく広がるはず。顔の見える薬剤師を育てていきたい」と話している。